

語りつぐ京都の戦争

空襲・疎開・動員と子どもたち



はじめに

この本には、いまから三十七年前の太平洋戦争のときの京都のようすが、それを体験した人たちの話を中心にして書かれています。それはこの戦争のほんの一部分にすぎないかもしれませんが、これを読んで戦争の本当のすがたを知ることが大切だと思います。なぜなら戦争を昔話や他人事ですますわけにはいかないからです。

いま世界は、ここに書かれた戦争よりもはるかに恐ろしい、人類を全滅させるかもしれない核戦争の危険にさらされています。軍備を大きくして戦争にそなえておこうという動きは日本にもないわけではありません。

それだけに、戦争の本当のすがたを知り、なぜ戦争がおこるのか、どうすれば戦争をなくすことができるのかを、みんなで考え、力をあわせていかねばならないのです。世界中の人びとがいまそれを考え、行動をおこしています。わたしたちはその人びとと共に考え手をむすんでいきたいと思っています。

戦争を経験した大人たちも、戦争を知らない若いみなさんも、いつまでも平和で人びとが幸せに暮せるように、知恵をだしあい力をあわせましょう。この本はそういう願いをこめて作られたものです。



写り真だてにこぼる京都の戦争

〈空襲〉



▲昭和20年1月16日深夜、アメリカ軍爆撃機B29が
東山区馬町一帯に爆弾を投下、41名が死亡

▼昭和20年6月26日、B29上京区出水地域に爆弾を投下、50名が死亡





▲馬町空襲の惨事



◀警防団員、馬町の被爆現場で救出・かたづけ作業中
(京都新聞社提供)



▲昭和20年7月30日、宮津湾の空襲で沈没した関釜連絡船「昌慶丸」
(宮津空襲の記録より)

即刻都市より退避せよ

日本國民に告ぐ!!

このピラに書いてあることを注意
して讀みなさい。
米國は今や何人もなし得なかつた
極めて強力な爆薬を發明するに至
つた。今日發明せられた原子爆弾
は只今の一箇を以てしても優にあ
の巨大なB-29二千機が一回に塔載
し得た爆弾に匹敵する。この恐るべ
き事實は諸君がよく考へなければ
ならぬ。いことであり我等は誓つて
このことが絶対事實であることを
保證するものである。
我等は今や日本々止に對して此の
武器を使用し始めた。若し諸君が
尚疑があるならばこの原子爆弾が
唯一箇廣島に投下された際如何なる

▲原爆投下を予告した米軍のピラ

東山区妙法院も馬町空襲(昭20)の被害を受けた。倉の壁に爆撃のひどさを語る爆弾のあと(昭和55年8月撮影)



戦災被害者の実態調査書 昭和29年1月6日記入
 氏名 橋川 実 昭和4年2月20日生 (男) 4
 現住所 京都府向日市上植野町御膳道35 電話 921-1878
 被爆年月日 昭和20年7月19日9時10分
 被爆地 長岡京市用田三美製鉄所工場作業場
 被爆時の状況 左足膝蓋骨13% 杖銃弾貫
 不傷口所 20.7.19朝9時頃イッポウの様空襲
 天王山方向より杖銃弾2枚(杖銃3枚)急降
 走2.3回旋回銃撃を最初の銃撃は負傷
 不傷口所の現在の状況 負傷
 正座する事が昨夏28年ぶりに出来
 月/回は負傷内脚がうづく事あり
 国・自治体からの補償の状況 ナシ
 国・自治体あるいは一般社へ要求
 戦災被害者になった人があつたが、私は
 戦争は両方が悪いので起る世の中
 争いは長くかつても辛甚強く話

戦災被害者の実態調査書 昭和29年12月29日記入
 氏名 今田 謙四郎 昭和3年1月25日生 (男) 女
 現住所 京都府中郡山崎町字原56-11 電話 2-1625
 被爆年月日 昭和20年7月29日8時30分頃
 被爆地 舞鶴市比叡町元 海軍工廠内
 被爆時の状況 米軍艦隊の空襲による被爆、急激な爆撃
 による待避する時間もなく、その場に倒れる。一語にWD同級
 生(重傷)水島加茂(大尉)が死に、中川井内(2人)は負傷した。
 不傷口所 右大腿部が半程弾片で穴が開いた。左上脛骨2ヶ所
 貫通銃創を指差した。左横腹、背中左大腿裂傷左足首下に弾片の跡
 あり。顔が出血した。取中の砂が川に流れれば取り除く
 不傷口所の現在の状況
 右大腿部切断 左上脛骨2ヶ所貫通銃創
 国・自治体からの補償の状況
 軍医の取扱い 傷害年金の受給を受けている
 国・自治体あるいは一般社へ要求 及び新設の
 私の場合に傷害年金受給の途、各重傷者には慰問金も
 者の何の補償性もない。誠に不十分。
 国政はこれ、新しい軍口で戦死者の遺族に
 しては、戦争を止めれば、戦死者の遺族に

▲かくされていた京都の空襲の実態を明らかにする「調査書」

京都の空襲

かくさされていた空襲

戦後ながいあいだ京都には空襲はなかったという伝説が信じられていました。今でも、その伝説を信じている人が少なくないと思います。

その理由は、戦争中は空襲の被害は軍の機密であるということ、ほとんど一般には知らされませんでしたし、戦争がおわってもアメリカの軍隊に支配されている状態では、京都は奈良とともに

文化都市であるから、アメリカ軍は空襲をしなかったのだということが強くいわれ、そのため京都空襲のことを明らかにすることができなかったのだと考えられます。また、皆さんが学校で勉強される社会科の教科書にも「京都は空襲を受けなかった」と書かれていたことも、このような伝説が長く信じられてきた原因のひとつでしょう。

この伝説の誤りを正し、京都空襲の真実を明らかにしようという運動が、一九七一年（昭46）年ごろから、京都の宗教者平和協議会の皆さんと京都

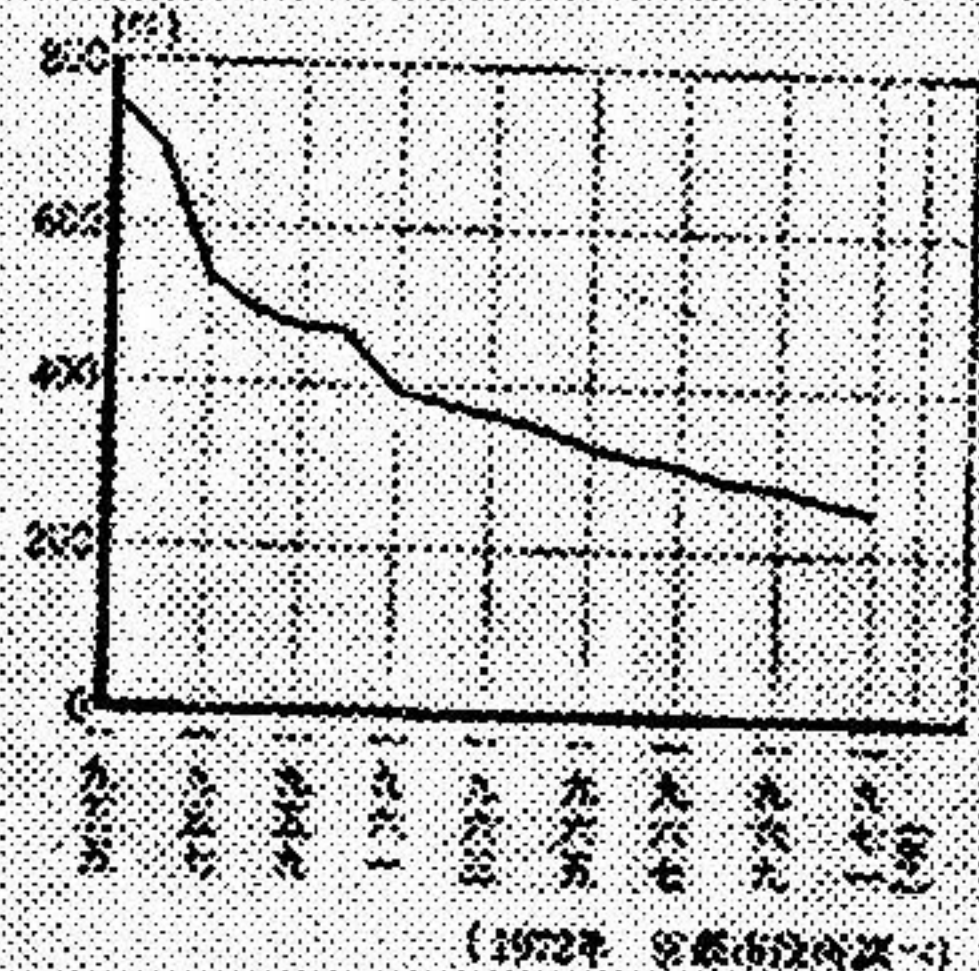
京都府教育委員会委員長 殿
京都府教育長 殿

京都空襲記録会
理事長 藤谷俊雄

小学校採択教科書の誤りについて

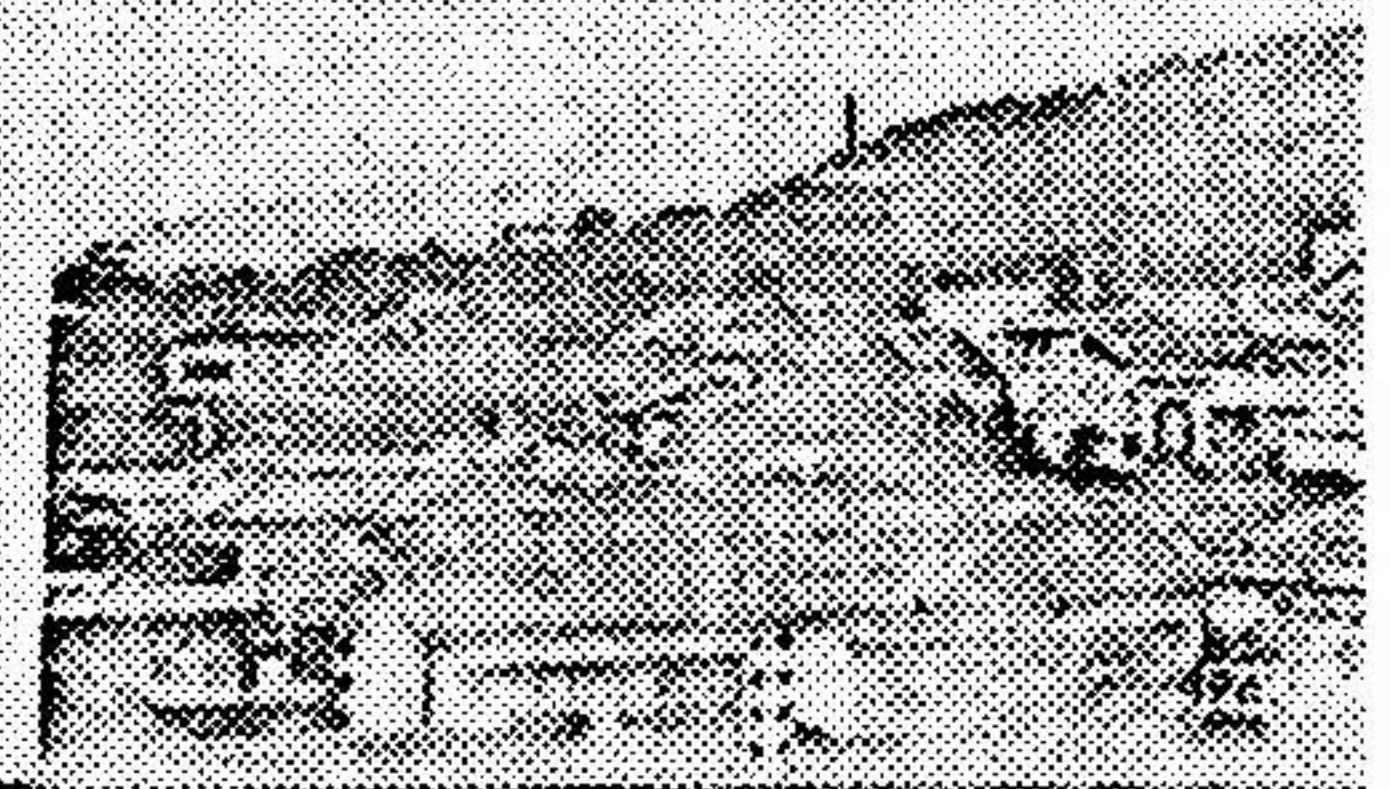
京都空襲記録会と京都府総合資料館では、昨年300人にのぼる空襲体験者、その家族や遺族の人たちに面接調査し、その結果判明しただけで、府下42カ所において空襲もうけ、死者302人、負傷者562人、被爆家屋761戸、被災者1,503人に達するという事実を明らかにした「かくされた空襲の記録」を発行しました。

しかしに貴委員会所管の各市町村教育委員会で採択され、現在大半の小学校で使用中の下記教科書のなか、23 2月5日付け毎日新聞で報道されたとおり「京都は……戦災をまぬかれ……」という事実を反した記載がある、民主教育推進のうえから誠



文化財や自然の美しさにめぐまれた都市です。しかも戦災をまぬかれ、古い町なみがむかしのですが、外国人も、愛されています。京都の市民は、産業をさかんにしながらも、この自然と文化財をまもるのにいっしょうけんめいです。一五年以上も連続して火災のへる記録をつくらなは、この気もちのあらわれです。

文化財や自然をまもる
古都京都をまもる
古都京都は千年の都として、いろいろな文化財や自然の美しさにめぐまれた都市です。しかも戦災をまぬかれ、古い町なみがむかしのですが、外国人も、愛されています。



▲京都は戦災がなかったと書かれた教科書(小学社会5年下、大阪書籍 昭和50年)

府の総合資料館を中心にひろがりしました。そして、空襲で被害を受けた人や亡くなった人の遺族の皆さんの協力で、だんだん京都空襲の実態がわかってきました。それらをまとめた本が『かくされていた空襲—京都空襲の体験と記録』として、一九七四(昭49)年に出版されました。これからお話しすることは、この本から一部分を皆さんにわかりやすくしたものです。今でも京都空襲で受けた苦痛で悩んで生活されている人が少なくないことを考えにおいて、読んでくださるといいと思います。

京都の空襲のあらまし

京都の空襲は、府下の空襲と、京都市内の空襲とに大きくわけることができます。

府下では、一九四五(昭20)年一月二三日に船井郡西本梅村(園部町)、宇治町(宇治市)、久世郡御牧

京都にも空襲があった(1)

1945年 1月16日 東山区馬町付近被爆地図



被爆地域

主に東大路以東渋谷通とその南側上馬町西部、下馬町、永田町、常磐町、下村町、西常磐町、東前側町、白糸町、鳥辺山に落下
○印は被爆地点。

規模

モロトフのパン屑とも称していた親子爆弾で投下後二つに開き中より人畜殺傷用5kg小型瞬発弾65発と3発の焼夷弾で、瞬発弾は信管に衝撃後5万分の1秒で爆発した。(当時の軍隊調べ)

被害家屋

全、半壊	計141戸
死傷者	89名
死者	41名
負傷者	48名
被災者総数	729名

1945年(昭和20年)1月16日

※①②…は投下順位と直撃地点

村(久御山町)にはじまりました。現在わかっているものだけで大小四三回にわたっています。死者四〇八名、負傷者六六八名、全壊家屋一〇二戸、半壊二〇六戸、一部損壊四四八戸そして多くの艦船が被害を受けました。府下の空襲の大部分は、海軍の工場、飛行場の火薬庫などの軍の施設の爆撃の余波を受けたものといえます。

京都市内では、一九四五(昭20)年一月一六日の東山区馬町の空襲、六月二六日の上京区出水の空襲などがありました。京都市内の被害は死者九四名、負傷者一七〇名、全壊家屋一〇〇戸、半壊一九六戸、一部損壊三一二戸となっています。

東山区馬町の空襲

一九四五(昭20)年一月一六日、午後一時二三分ごろ、アメリカ軍の爆撃機B29一機が京都市内に侵入してきました。高度約六千メートルの上

空から、東山区の馬町一帯に爆弾が落とされました。この時の爆弾で四一名の人が死にました。傷をされた人は四八名、一四一戸の家が壊されました。これが京都空襲の最初のものでした。もちろん、これらの被害はすべて秘密にされ、ごく近くの人びとがおよそのことを知っているだけで、次ぎの日の新聞には、被害は軽く、被災者はすぐに復興に立ちあがっているという記事がのせられただけでした。次の文章は、馬町空襲でご自分も重傷をおわれ、そして小学五年生の美和子ちゃんというお子さんを亡くされた井上さんのお話です。

子どもをうばわれた苦しみの中から

井上富美子さん

昭和二〇年一月一六日も終わらんとしていた二時三十分ごろ、不意の米軍による盲爆のため屋根は吹っ飛び、暗闇の夜空には、冷たい星が輝いていました。

来客のため眠りについたばかりの一家のものは、投爆のため破れた柱や壁の下敷の中で目が覚めたのでした。でもそのときは、みなそれぞれ負傷を
していたのでした。主人は顔面と手足に、私は左
眼に、中学二年で一五才の次男は、破片貫通のた
め、右足の胫骨や、腓骨を肉もろとももぎとられ、
完全骨折をうけたのでした。そして小学校五年で
一二才の娘は即死。さいわいにも、次女で小学校
二年で八才の小さな子だけは無傷で助かったので
した。

主人の義弟がちょうどきていまして、ガラスの
破片が眼球にささり片眼失明し、いまは義眼によ
って毎日憂き目をみています。

——足の骨が折れた次男は、担架で小学校へ運
ばれたが、傷の手当てもしてもらえず、すぐに八
坂病院（現洛東病院）に転送されました。私は目
から血が流れていましたが、自分のことなどかま
ってはいられません。息子の傷と痛がる声
をきいては、なにも感じ考えるどころではありま

せんでした。壊れた家の中には、即死した娘がそ
のままにしてありましたが、かまっつてやることす
らできませんでした。——

翌日、軍から見舞いにはこられたように記憶し
ていますが、軍人様々の世の中ではありましたが、
こんなひどい目にあわせた軍のやり方が憎くてし
かたありませんでした。勝目のないのに、まけて
いた戦争でさえ勝った勝ったと国民をだまし続け
ていた軍には、口にこそ出して言う人はなかつた
が、不平たらたらでした。一緒に負傷した人たち
は、寄ると誰言うとなく、軍のやり方やもろもろ
の悪口ばかりでした。

家は壊され、家財は何ひとつとして満足なもの
がなく、着たきりの姿で病院ぐらしがはじまった
のでした。長い長い病院生活がはじまったのです。
一月一七日から一〇月一五日の退院まで満九カ月、
一発の投下爆弾によって生まれた悲劇の数々を味
わったのでした。私と同じ悲しみを味わったご家
庭が数十軒もあり、母と子、子供さん二人とそれ

ぞれ違ったケースはあったが、悲しみはみな同じでありました。

——病院の差額料金は個人負担で、長い入院で相当の出費でした。生活必需品である炊飯用の鍋、こんろ、お茶碗などは、市当局よりの配給をうけましたが、居住町内会からの配給は受けることが少なかったので、子供の栄養補給食を与えることができず骨折の治療にも差支えることが多くありました。そのため主人は休日になると、魚や煮干しの買い出しに伊勢方面へ行っていました。頸骨がのびてつながるまで、おもりでつねに足を引っぱっている子供の姿を見ると、本当に米国が、軍が憎くてしかたありませんでした。ベッドに寝たまま手鏡に映る東山や加茂の川原、その辺に遊ぶ子供らの姿を眺めて、時のうつり変わりを感じていた子供の心情を思い、こんな悲しいことはありませんでした。自分の目の不自由なんか問題でないと思いました。——

どんなことがあっても、戦争だけはしてほしく

ありません。子、孫の代になっても、戦争はしないようにと願っています。軍備には絶対反対をせねばならないと思います。つらい苦しい目をみたものにとって、とくにそう思います。

(『かくされていた空襲』より)

上京区西陣の空襲(出水地域)

一九四五(昭20)年六月二六日、午前九時半ごろ、B29の編隊(六一〇機)が近畿地方に侵入してきました。空襲の危険を告げるサイレンが京都の街にひとときわ強く鳴りひびきました。そのうちの一機が上京区の出水地域に爆弾を落としました。この時の爆弾で五〇名の人々が死にました。傷をされた人は三〇〇人以上だといわれています。壊された家は二九二戸でした。次の文章は、ご両親を亡くされた堀さんのお話です。

父さんの遺産をもとに家も新築し、仕事も軌道にのってきていました。ところが、昭和四年一月二十六日、橋本さんの耳はきこえなくなっていました。

——「命あるかぎり、生きる道があるはずだ。

見えない、きこえないという私に残されたものはなんであろうか。」と考えば、ますます絶望的になります。——「まだなにかある。

さいわい、点字の読み書きもできる。身体もほかのところは健康だ。精いっぱい生きなければ、二

七年の苦勞が水のあわだ。」とむちを打ち、協力してくれるめいに手をひかれ、鍼はりに灸きゅうに、また内科の医者へとかよっているのです。——

いま、静かに二七年の歩みをふり返ってみるとき、貧しくても、苦勞しても、人なみのしあわせがほしかった。——本當に（戦争を）憎にくんでいるのは、肉体を傷つけられ、人生を変えられた私たち戦傷者ではないでしょうか。——特定の国の利益のために人を殺すことが、なんの正義なのでしよう。もう戦争は絶対によくないやです。

（『かくきられていた空襲より』）

一九四五（昭和二〇）年京都空襲被害一覽

月	日	時間	機種	機数	爆下 投数 弾	被災場所	死者	負傷者	被害家屋	被災者
一月	16	23.23	B29	1	251	京都市東山区上馬町、下馬町、永田町、常盤町、下村町、西常盤町、東前側町、白系町	41	48	316	729

注 一—死傷者数は、一般市民の死傷者の数で、軍人は含まない。

但し、伊根町の場合のみは海軍軍人。

二—数字は判明したものだけで、不明分は空白とした。

三—合計は、百数十名又は約百名は一〇〇として計算した。

五月	四月			三月		二月				
	22	16	7	19		4	29	23		
10.00	9.50	12.00	12.15	7.30	7.15	5.15	20.15	15.30	2.40	
		B29								
		1								
銃撃		10	1	3	9	83	5	11	銃撃	銃撃
京都市上京区御所、河原町荒神口付近	京都市北区紫竹、大宮、上賀茂付近	京都市右京区太秦巽町14、唐渡町19、東唐渡町ほか一か所	相楽郡山田荘村（現精華町）山林	京都市右京区春日通高辻、仏光寺通西大路、春日通五条	南桑田郡曾我部村大字広畑 山林（現亀岡市）	久世郡久津川村（現城陽市）	相楽郡上狛村（現山城町）木津川河原、ぶどう畑、麦畑	船井郡西本梅村（現園部町）大字大河内小字榎山の斜面	久世郡御牧村（現久御山町）	宇治町宇治（現宇治市）
0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
11	4	48	0	0	0	0	0	0	0	4
		7		3		31	100			

語りつぐ京都の戦争

—空襲・疎開・動員と子どもたち—

15日 2刷発行

語りつぐ京都の戦争出版委員会

—'82平和のための京都の戦争展開催記念—

日本機関紙協会京滋地方本部

京都市上京区丸太町新町上ル春帯町350

TEL (075) 211-4651(代)



186367

14032013

¥350